

平成29年度第1回松本市文化芸術振興審議会 議事録

日 時： 平成29年7月18日（火） 午前10時～午前11時30分

会 場： 大手公民館 視聴覚室

内 容： 松本市文化芸術振興基本方針に掲げる対象事業の進行管理について

出席者： 笹本会長、小松委員、宮嶋委員、山根委員、小澤委員、辻本委員、佐久間委員
（事務局）【文化振興課】寺沢部長、久保田課長、百瀬係長、小島主査、竹内主任

欠席者： 瀧沢委員、花輪委員、倉澤委員

1 開 会

2 会長及び副会長の選任

（事務局）改選となりましたので、会長及び副会長の選定についてお計りします。会長は議長を兼任します。

（委員）事務局一任でお願いします。

（事務局）事務局案を提案します。会長につきましては笹本先生、副会長は花輪さんをお願いします。

（委員一同）意義なし。

（事務局）ありがとうございます。ご賛同いただきましたので、この二人に正副会長をお願いしたいと思います。では笹本先生をお願いします。

（会長）皆さんこんにちは。こういうものを決めた以上はきちんと管理する。今まで適切なことをやって名前だけ出すのは良くないと言ったらそのまま全員残ってしまったと。言いだしっぺである責任は取らなきゃいけないと思っています。そうは言ってもこの会の委員の皆さんは気心知れているので、私が何を言い出すかも見えていますので、みんなでも少しでも松本市の文化芸術が振興するように、そして市民の心がより豊かになって未来の松本市が今よりさらに有意義になるように審議を尽くしていきたいと思いたいでぜひご協力のほどお願いします。

3 議 事

それでは会に入っていきたいと思えます。本日の会議は定数は足りておりますので成立を確認します。円滑な会議の進行をお願いしたいと思います。本日の段取りですが前半で新基本方針に基づく施策のアウトプット、アウトカム、インパクトの3つのレベルでの評価に関わること。後半で審議会としての重点項目、事業の選定対象につきましてご意見をいただきたいと思えます。

それでは会議事項1、松本市文化芸術振興基本方針に掲げる進行管理につきまして事

事務局の方から説明をお願いします。

(1) 会議事項 松本市文化芸術振興基本方針に掲げる進行管理について
事務局より進行管理について報告

(会長) ご説明ありがとうございました。松本市文化芸術振興基本方針に係る進行管理につきましてご意見等ございましたらお願いします。事務局に問います、私たちは何のために文化芸術振興基本方針を作ったのか、何のためか教えてください。

(事務局) 今回皆さんに基本方針を作っていたいただいたのは、まず1点、国が方針を改定したということがございました。それを受けてということもございますが、もう1点、国も文化芸術を今後、国の成長の柱としていく中で、松本市も以前作った時から言い方悪いですがやりっぱなし、もう一度これを見直して市民の活動の一助、市民が活動していくためのひとつの方針・指標にすると。そのためにもう一度過去あったものを見直して、今度はどのように進めていくのかをきちんと定め、ただやりっぱなしではなくてきちんとこれを管理し次に向けていくということをひとつの柱として進めていくということを皆さまにもお願いしてあったと思います。

(会長) ありがとうございます。私たちとしては国とか松本市、そういう方針の中でも一番大事なのは市民が文化的になって、市民が豊かな生活を送る。お金とかそういうことではなくて精神的にも文化的にも豊かになる。そのためにはどうしたらいいかというのが大目的であって、これを戦略的にとかそういうことは、それをやるための手段だということをまず認識しておきたいと思います。私たちの目的がぶれてしまうと全体がぶれてしまいます。基本的に私たちがここに集まって色々意見を言うのは、市民全体の文化を上げて、それによって市民が幸福になって、さらによりよい松本市ができる。このことを確認した上で、私たちはどのように進行管理をしていったらいいのかということを確認したところです。それを踏まえて皆さまからご意見をいただけないでしょうか。

(委員) 国が新しく出したことで、今までと変わったところ、強調されたことは何ですか。

(事務局) 新しく変わったことは、文化芸術を国の成長の源泉としたということが大きな改定点だと思います。

(委員) 具体的をお願いします。

(事務局) クールジャパンとよく言われているようなものもありますけれど、そういった日本独自の文化を今後推進発展させていくということ。それだけではありませんがそういったものもやっていくということもありますし、文化芸術を以って国民満足度をあげていくということもあります。

(委員) 私が知る限り松本は日本一、世界一文化芸術にお金をかけています。市民がどれだけそれを享受しているのでしょうか。クラフトフェアは3年間調べましたけれど20～25%くらい、セイジオザワも歌舞伎も多分そのくらいで、せっかくやっても市民が中々来ない。県外から来ますから経済効果は生まれますけど、市民にはそれが享受され

ないと考えます。例えば松川村の90%は市民が楽しんでいます。市民の団体が140団体あって、その団体に関して施設使用料は無料で、ちゃんと管理されていて、みんなが楽しんでいます。それを作り出した人たちが、市民が楽しむにはどうしたらいいかという考えで会議してやっているというの也有りますけど、松本は文化団体がいくつあるかもわからない状態です。

今回のコンセプトでずっと、市民がどう楽しむかというのがあります。私は街かどでコンサートをやって欲しいと言って、市制110周年で街かどのコンサートと街なかでクラフトというのを打ち出させていただいて、今年はずっとやることになっていますが、中々市民参加型がありません。例えば大道芸が楽しいと行きますが、建物の中でこれやっているからお金出して観に来いと言っても中々できないですね。7千円も8千円も払うなら、無料券でも出してくれと思うが何もなくてただやっています。その辺が市民に本当に伝わってないということで、今回こういう形で、市民がどう享受するか。数値は出ないけれど誇り豊かな暮らしというのは、楽しいとか喜びとかありますから、それがどこまでできるかというのをきちっとやって。今回は数字までちゃんと出ていますから。普通は作りっぱなしで終わりですし、普通のところは国が作った指針、6つか7つのもをそのまま全部真似してやっています。松本は明確に「松本はできていない」と出してきて、できていないところをこれからやろうということですので。大きなイベントやって、もうイベント系は成功していますから、あとは市民がそれをどう楽しむかということ。

美術館もクラフトフェアの時には人がたくさん集まって写真を撮っていますけど普段は誰も写真を撮っている人がいません。好き嫌いはあるかもしれませんが草間弥生さんというあれだけ世界の巨匠がいるのに、地元のものに対して中々できていないというのはどういう問題か、これを通してきちっとやっていくことだと思います。

私はNHKに教えに行っていますが、集まりは非常に少ないです。長野県、特に松本はNHKとかお金を取るカルチャー教室には集まらないと言っていました。公民館でやっているから中々お金取ると来ないと言われているので、そういうのは出来ていると思います。今回こういうことで作りっぱなしでなくて初めてこういうのを検証する。どういう形で検証できていくのか、それが私としても勉強になるし非常にいい機会だと思いますので、できたら本当に市民がどうしたら楽しんでもらえるかということですね。松川村は村長も出てきて必死になってどうしたらいいかやっています。その辺のところきちっとした検証をして、市民参加型というのをメインでやっていただければいいなと思います。

(会長) 国の方針の中では間違いなく観光的な部分が大きいと思います。文化を通して観光振興策をして海外から人を呼び寄せる。我々が作ろうとしている部分とは、先に市民があつて、それに来てくれるのはいいけれど目的を逆にしたらいいけません。一番問題なのは、松本市の文化芸術振興基本方針というのは、市民一人ひとりがいかにしたら文化

的になっていくか。そのためには市民が参加するように。ややもするとセイジオザワとかクラフトフェアとか大きなイベントをやるけれども、市民がどれだけ参加しているかというと実際問題お寒い限りです。そういう中で、今回のものは今までと違うものにしていきたいということをみんなで決めました。だからこれから進行管理も、我々が決めた以上やっていきましょうというところに来ています。ただし、非常に難しく、今までだったら何人とか何パーセントが満足しているという観覧のアンケートで済んだわけですが、アンケートでは済みません。逆に言うと、今までだったら参加している人たちのアンケートでしかないので、当然意見が変わってきます。でも、市民全体というところをどういう風にしたら評価できるかという、私たち自体がすごく大きな宿題をもらっているわけです。ただ、山根先生がおっしゃったように、今までなかった、我々にとっても新しいことを勉強させてもらって事務局も勉強してくれているので、事務局と私たち委員とが一緒になって勉強することによって最終的には市民全体の文化レベルが上がり、それを見たいと思って県外から、あるいは世界から来るようなレベルに持っていくようにしなくてはなりません。そしてそのことを通して市民の皆さんが、松本で良かったな、他の市でなくて良かったなと言ってもらえるようにしていかなければいけないと思います。そういう意味で委員の方からは、松川村のことを少し事例として学んだらどうでしょうかという意見でした。他にご意見ありますでしょうか。

(委員) 昔は観光振興でしたが今は観光町づくりで、市民が主体で文化的な街にして観光客がやってくるという感覚ですのでアーティストも。小布施が20年くらい前にシンポジウムをした時に、観光は作ってなくて文化的な街にすることによって観光客が来るので観光作らなくていいって、観光がブームの時にそういうことを言われて、私はへえと思っていたのですが今はそうになっていますので、主体は観光客でなく市民です。

(会長) 参考までにお話しますと、このすぐ横に松本市の博物館があったんですけど、最初の基本方針を書いた時に圧倒的に観光の人たちが多くて、私がこんな時に市民が税金を出して作るのには観光は二の次であって市民が満足できるかどうか、お土産屋なんかが中心であるべきではない、市民が自分たちのことを発見できるかどうかということが大事だということで、ずいぶん意見を言ってきたつもりです。そういう意味で言いますと、本委員会の方の市民がどうしたら文化的になれるだろうかということで、私たちは今まで分野方針から個別事業、戦略目標等色々な形で見てきましたが、それをどんな風の実施できたらいいのか、少し皆さんの方からこんな方法がありますよとか、今の事務局の説明に対して何か疑問とかありましたら。

(委員) 中々自由度が高い施策だと思います。市民の文化度を上げるというのは、私自身今年の4月から楽都まつもとライブという、先ほど委員から話が出ましたけれど、近くで生演奏を届けるという運営組織のリーダーをやらせていただいているのですが、これまでやってきていて、段々足を止める人が増えています。本当に駅前のところでは生演奏をやっています。以前はそういう試みというのはまったくやっていなくて、毎回事務局

の方が人数数えてくれています、その数が段々回を重ねるごとに増えてきました。クラフトフェアをやっている時にもやって、その時も人数が結構集まったのですが、最近その頃を上回る人数が足を止めるようになってきました。そうすると市民の方々の、こうした文化芸術に触れる機会がこれまで中々なかったのです。それが当たり前にある状態になってくると、通りかかる人が自然に足を止めるという状態が起きているということを感じます。あながち、何となくただ見に行こうというのではなく、たまたま見かけましたという、そういう機会を作っていったら市民全体のレベルの底上げになるのではないかと思います。

(会長) 今の意見は先ほど山根委員のおっしゃった、従来型の建物の中でやるという部分から、町に出て市民と直接触れ合う方針を少し打ち出すと。ある意味では金額的にもずっと安くできるわけですし、大きなイベントをやる以上に今言ったような小さな市民と触れ合う活動を少しでも多くして、そこに来ている人たちの雰囲気あるいは人数がどれだけ、そこで来てくれるか、それを積み重ねていったら、サイトウキネンと比較してどっちがどうかと言えるかもしれません。本当に市民にとって触れ合える機会を作る方がいいのではないかという意見でした。

(委員) うちの家族はどこかで何を観るといのは嫌いで、大道芸やクラフトフェアも個人的には行った方が楽しいと思うのですが、誘っても行かないと言われてしまいます。まだまだ自分の普段の活動以外にそういうところに出て行くことに抵抗があるというか、興味がない人の方が多いと思います。ここへ行ったら面白いよというような草の根的なところに手を広げていくというのが自分たちの活動の大きなところではないかと思えます。

(会長) 昨年からは歴史館の館長をやっていますが、松本市民も中南信の人は誰も知らないんですね。毎日フェイスブック書いて毎日活動して、テレビなどでも私が歴史館の館長であるということクレジットに入れることによってだいぶ違ってきています。だいぶ名前が知られるようになりました。逆に言うとフェイスブック等一般の人たちが接触するようなものにどれだけ挙げられる努力をしているか、またどれだけ取り上げられているかということがひとつの指標になるかもしれません。委員がおっしゃったように、私もこれだけ忙しいと、大道芸も気がついたら終わっていたという感じになります。サイトウキネンだけは何とかチケット手に入れたけど本当に行けるのかなという状況。そういう意味からすると委員がおっしゃった「普通の人たちに興味を持たせる」方策をどうしたらいいか、ということがどこかの中で信号になってくるといいですね。

(委員) 自分もその場に行ければ一番いいのですが、駅前で行っているライブを見る機会も少ないです、そういう場所に行けない人たちに興味を持たせるには何かないと考えると、やはりSNS。今で言うとインスタグラムやフェイスブックみたいなのは、いいねと反応が出ます。ひとつの評価の基準としてはかなり大きくなっていくのではないのでしょうか。行けない人や行かなかった人たちがどのくらい興味を持つステージまで上げていく

のかというのが大事だと思いました。

(会長) どうしても今までアンケートその他は参加した人に聞いていました。逆に参加しない人にやったらいいと思うのです。知らないあるいは知っている、知らない人がどのくらいいて、知っていても行かない人がどのくらいいるかというのをきちんとやらないと、市のお金を使うということは、参加する人の割合が委員のお話では25%くらいだということだと、むしろ75%の人に対して説明しないといけません。だからやり方も委員が言われたようなことを前提にして、我々もちょっと方針を考えた方がいいかもしれませんね。

(委員) ひとつひとつ検討するのは無理だと思い実家の母に見せて意見を聞いたところ、「アウトプット？インパクト？書いてあることがさっぱりわからない」と言われてしまいました。そこで、文化芸術を市民に浸透させるにはどうしたらいいと思うか聞くと、「地域格差がありすぎると思う」ということでした。笹賀から松本駅前に来るにはバスの本数も少なく大変な労力です。街なか大道芸も知っていますが、市街地に住んでいる人とは温度差がありすぎて、それをどうしたらいいのか考えるのが私の仕事と思うのですが、どうしたらいいでしょうか。まず交通網がありません。では駐車場を無料にするとと言っても観光客もいるし駐車場の数にも限りがあります。答えが出ていない状態です。温度差があると思いました。

(会長) 自分の経験を前提にして、どんな大きなことでも自分という立場からものを考えていくとひとりひとり違いますね。委員の中に合併地区から来ている人はいますか。何かにせよ旧来の松本主義で、お城の見える旧町が中心になってしまっている可能性があります。先ほど委員が言われた松川は全体が郡部ですから、皆さん同じ条件なのです。下手をすると松本は文化レベルが高いというのも地域格差があるのではないのでしょうか。つまりそれは都市部に対してのみお金が払われている形になっていますが、合併地区はいったいどうなのか。その辺をきちんと見られる指標を作っておかないと、中心部だけが栄えるような振興策では困ります。だから「市民全体が」という言い方をすごくしたのです。

自分の話で申し訳ないですけど、松本市の博物館を作るに際して、皆さんお城お城って、お城の近辺でと言うけれど、松本市民で日常的にお城の周辺にいる人は何%いるのか、日常的に見るのなら山の方がずっと毎日見ているしどこの市民も見られます。合併地区の人たちにも良かったと言ってももらえるような体制を作っていかなければいけないと思います。委員がおっしゃった、文化芸術振興策が平等であるためにはどういう視点を持ったらいいかということは、今まで欠けていた可能性が強い。周辺地域も含め全体を考えていく視点が必要ではないかということで大変重要なご指摘をいただいたと思います。

(委員) そういう意味では私は城東に住んでおりまして、正にお城の近くの中心部に入ります。確かに周辺地域の方々には、他人事という感じを持たれてしまうと思いました。

しかし、私の周りの方々は、私が美術館を利用している頻度が高いということや年齢的なこともあるかもしれませんが、書道や俳句や絵など、日常的に文化に触れている方たちがたくさんいます。その中で、よそではこんなことをやっているのかと驚いたり、この審議会に関係しているかもしれないというような活動の情報も色々知ることがあります。ですから、OMFとか歌舞伎とかクラフトフェアとか大きなイベントではなくて、非常に小さなことでも生活を楽しんでいる方たち、そういう方たちからの視点をもっと広げていくにはどんなことができるのか。どんな手助けが、と言った方がいい感じがあります。市の中心部から離れた人たちに、またそちらの方には違った文化があるかと思えますけれど、手助け的なことを考えていったらどうでしょうか。

(会長) 今の「手助け」という非常に新しい概念です。芸術、また先ほど意見が出た地域格差の問題、格差のある地域にはどうやって手助けをしたらいいか。今までの論議を聞いて私は一番足りないのは世代間の助けだと思えます。例えば安曇野市は必ず「こども」という言葉を入れています。それは、文化を作っていくのは次の時代の人たちで、退職した老後の世代の人たちではありません。いかに子どもたちに手助けして文化的に上げていくかということが重要です。で、一方で子育て世代は子育てや学校関係やっていると文化的なところに行けないとか、年齢層によってもずいぶん助けるべき部分が違うと思うのです。今までややもすると、そういう年齢構成を考えずに、あるいは地域のどこに住んでいるかということを考えずに大きな枠組みだけでしか話をしてきませんでした。ですから手法の中に、ちょっと細かくてもそういうことを入れることによって、文化が劇的に浸透してくるということになればいいと思えます。

一通り皆さんのご意見も出揃ったと思えます。今回示されたのは最終案ではありません。ですから今日私たちが言ったような意見を全体の中に入れた時に、どのようにしたら文化振興しやすくなるかということを考えていただいて、次の懸案にさせていただければいいと思えます。まだ言い足りない人はいますか。いいですかね、じゃあすみませんけど、事業についてはよろしく願います。

続きまして本日の最終的な到達点は、審議会としての重点項目である事業を選ぶ・決めていくことです。何となくこういう表ができますと同じレベルで同じ件数になってしまうけれど、実はそれぞれに関して何を伝えるのか、これを重点にすると他のものが上がってくるというものがあるわけです。これだけ、ずらっと並んでいると見るのも嫌になってくるんですが、大事なものは、ひとつふたつでいいからきちんとそれが実行できるような体制を作っていくことだと思えます。そこで、重点項目につきまして事務局の方から提案がありましたら願います。

事務局より重点項目への提案

(会長) ただいまのご提案に対しご意見ありましたら願います。先ほど私、考えなければいけないなと思ったのが委員の意見でして、勝手な表に並んでいて、言葉の使い方

が実は極めて文化的ではないのです。海外の言葉をそのまま持ってくれば今まで文化的だと勘違いをしていました。日本がなぜ、近代これだけ発展することができたかというのは、既に翻訳ができました。つまり日本語というのは非常に豊かな表現の技術を持っていたので、逆に日本語を英語にすることができない言葉がいっぱいあります。いつの間か私たちの側に形骸の恐らく政治文化のしこりみたいなものがあるのでしょうか、英語とかフランス語とか海外の言葉をそのまま並べると文化的だと思いをしているくらいがあるのだと思います。言いたいことは、できるだけ一般市民の皆さんにとってわかりやすい言葉で表現して欲しい。逆に言うと言語を先にリモート翻訳をした上でカタカナ表記をするくらいのことをすべきではないかと思います。今まで私そういうところ少し足りなかったと思いますので、これから先はできるだけそのような、つまり私たちのかかっている日本語が正に日本人の文化の一番中心になります。中心というのはツールでそこに気を使いながらこれから出していく時も少し違うことが出来たらいいと思います。ご意見どうでしょうか。

(委員) これでどうかと言われても正直よくわかりません。今これに選ばれているものに対してどうのこうというのはないのですが、個人的には美術館が選ばれて図書館が選ばれていないのはどうなのかなと思います。本を読むということは子どもたちにとって重要なことだと思っているし、今はそもそも字を読まないという中で図書館からメインに活動して子どもたちに字を読ませる、本を読んでもらうというのは、次の世代の子どもたちを育てる時には重要なことだと思うので、選んで欲しいと思ったわけです。

(会長) 委員からの意見としては文化をどうとらえるかによって違うということですね。今一番重要なのは活字離です。電車等に乗ってもスマホ見ている人ばかりで、簡単な思索をする時間もなくなっています。そういう意味からすると図書館活動をきちんとどこかでもっと評価ができるといい。ここで評価するということは、嫌でも重点項目になって、後で評価するということです。美術館もいけれど図書館あたりに少し注目していただけないでしょうかというご意見です。恐らく数だけ言えば圧倒的に多いのは公民館、そして一般的には図書館の数より美術館・博物館の数の方が多いです。すると実は市民にとって公民館活動が一番文化に接しやすいことになります。そうするとどの評価なのか。表を見ると20番が文化振興課、27番が国際音楽祭推進課、40番、43番が文化振興課、70番が生涯学習課。つまり言いたいことは、一番評価しやすい自分たちの文化振興課を中心に選んでいるのではないかという気がします。そうではなく、これは市全体を縛るものなので、逆に文化振興課でないところ、例えば今の図書館のようなどころを入れ込むというのも、これからの方策としてあり得るのではないかという感想を持ちました。

(委員) 重点項目ということで、網掛けの部分を選出していただいたのですが、逆に今この審議会の中で選べる余地はあるのか、もしそういう自由があれば自分たちでもこういったものをとということで選べます。

(会長) 当然だと思います、委員会が主導ですから。ただ、すべてが重点だと意味がないので、ある一定度までの数はOKですし、場合によってはこれを出しましょうという提案を出していただくのは全く問題ありません。是非言っていただけたらと思います。何か提案ありますか。

(委員) 3月にこの基本方針の講演会がありまして、その後交流会をしまして、色々な分野で活動していらっしゃる方と会ったのですけれど、この43番のアーティストバンクの整理を入れていただいた中で、登録数というのは把握されていますか。

(事務局) 今日現在76の個人と団体の方が登録されております。

(委員) そうですか。参加された方はそんなに多くなかったのですが、本当に皆さまご活発に歓談をされていて、ああいった機会をまた作れたらいいのかなという感じがいたしました。

(会長) ここのところは、ある一定量の水を注いで、その横のつながりを自らが作っていく体制を作らなければ、いつまでも市主導でやっていくわけにはいかないと思うのです。環境づくりが大事になってくると思いますので、そこは是非よろしくお願いします。

(委員) 質問ですが、この別紙1の一覧表は市民の方々に実際にお見せする形になるのですか。どういう位置づけなのか。

(事務局) このままの形でお見せしても、先ほどからご意見いただいているように非常にわかりづらいので、出し方については工夫が必要だと思っています。それで個別項目75項目につきましては、こちらの施策の展開例に黒ポツで挙げたものをそれぞれ羅列してありますので、これについてはホームページで随時掲載をしているというのがこの個別項目事業のところなんです。で、今後いわゆる評価とかが進んでいくにおいては、アウトプット・アウトカム・インパクトの部分をどういう風に表現していくか今後の研究課題ですが、こういう目標を置いた、それに対してこういうような成果がつかめたということをお知らせしていくということも今後考えていかなければならないと思います。

(委員) 項目を見ていて、全体的にどの項目が何を意味するのかというのは中々何かわかりにくいかなと思っています。まず戦略目標、これを見ると、内容としてはこういった施策の立案の実現等、内容としてはむしろ目的とか目指す条件とか、目標って達成したかどうかが明確にわかるもので、そうするとその右側、アウトプットの右側のところまでが目標になってくるかなという気がしています。そうした時に今度はアウトカムの指標ということが目標値になってくるというイメージでいいですかね。

(事務局) そちらの表の中で指標と書いてあるところが仮に数値等でうまく表せる内容があれば、それが数値目標になってくるのです。再三ご指摘があるとおりに、文化振興に関しては必ずしも数値で表せないものもありますので。ただ、こういう状態になったらほぼ理想に近づいているのかなということを文章で表現したいということも出てくると思いますけど、それがここでいうところの指標という形に設定をしていくようになっています。

(委員) 項目によりけりですけれど、わかりやすいところとわかりにくいところがあったりして。そうは言っても参加者の満足度等はそれだけ見るとどうやってみるのだと、そういうところってまだちゃんと決まってないところが多いと思うのです。でも例えば、例としてこういう補足が書いてあるとか、ホームページの「いいね」の数とか、直接的に具体例があったりすると、目(め)的によりいいのではないかと思いました。

(会長) 話のいきさつで、私たちはこれをやりたいと委員で決定した、そうするとそれが進んでいるか進んでいないか検討しないといけないというのが我々の気持ちですよね。今までは何でもいからアリバイのように、審議会が作りました、それで終わりでした。やっている人は誰も責任取りません、本当に進んでいるのか進んでいないのかわからない、それでは困るので、我々はきちんと評価していきたいです。評価というのは目標が一番大事で、目標値がどうなっている状況というのをある程度みんなで合意したら、そこに到達しているのか、到達目標がものすごく高ければ到達できないし、ある程度市の方で到達できると思っているのかいっているのかいないのか、全部チェックできる体制を作っていかなければなりません。そのためにも目標とか評価の仕方とかそれをわかりやすくしたらどうでしょうかというご意見です。もうひとつ言いますと、例えば27の環境の状況って、例えば私の場合ですと新聞とかテレビのニュースで取り上げられた、それによって市民に周知が図られたということが出来るわけですね。説明ができる準備をきちんとしておくように。例えば新聞に取り上げてもらいたいという時には、こちらの方から当然新聞社に連絡したり、これ取り上げてもらえますかっていうのを全部やっています。そういうことを通じてでないで新聞に出ていないので、そういう具体例を少しずつ入れながら評価ができる体制を作っただけないでしょうか。

(委員) ここに出ていることが全部実行できれば松本市の文化芸術の底上げになるということで市役所の方々も一生懸命考えていただいているので、それは是非やっていただくべきだと思いますが、私が置かれている環境としては、やはり子どもたちがこういうことに興味を持って成長していってくれば結果的に松本という町が大好きになって、文化芸術の底上げになると思うので、学校サポート事業以外は個人的にはあまり重要じゃない。今学校では市から「松本城」という教科書をもって勉強しているようなのです。そういったこととか含めて学校サポート事業、郷土学習71番というのはとても大事だと思います。去年、笹本先生が林城のことで来てやってらっしゃいましたね、私子ども会の役員の仕事があってその日行けなかったのですが、ああいう機会をもっと増やしていただいて、松本ってすごくいいところだなと子どもたちに伝えていけるように。美術館もピックアップされていますけど、子どもたちに重点を置いたものを選んでいただけたらなと思います。

(会長) 委員の意見はとても大事で、同数だとは言っても実際は色々な委員会で女性のメンバーが全体的には少なく、しかも子育て世代の人たちは案外いないのです。その中で日常生活を軸に置いた委員さんの意見というのはすごく説得力を持っているのではな

いかと思います。委員さん、日本で一番入る美術館ってどこですか。

(委員) 金沢21世紀美術館です。

(会長) 今まで、美術館や博物館は文化レベルが高くて経済力のある人が行くのだと思われがち。大変失礼ですけど私にとって金沢21世紀美術館はそんなに面白くないです。にもかかわらずあそこはものすごく人が行きます。実は、小さい時からああいうものが面白いと思わせてしまったら勝ちなのです。ですから私も今、長野県立歴史館で、親子のための歴史ふれあいコーナーを何とか作ろうと動いています。基本的には小さな子どもたちの時に投資する、これは教育の大原則で、大人になったらお金かけてもどうしようもなく、小さいうちにやるのが文化を高める一番の手段だと思います。委員の意見のように、意図的に子ども、手法として出しやすい部分を作りこんでいくことにより、松本市は意図的に子どもに注目してやっていますということが、指標や評価の中に見える体制を作った方がいいと思います。現実には今一番来ているのは年配の方ですから年輩の方を中心としてしまうと、年配の方には失礼ですが、いくらお金をかけても次の文化が創れるわけではないです。むしろ幼稚園生、21世紀美術館にはベビーシッターがいるそうですけど、子どものうちから接触できる体制を作ってあげる、それこそが文化だと思います。そういうことをきちんとこの評価の中にも入れ込みたいと思います。

(委員) 例えば金沢21世紀はできた時に何十億かお金がかかっているのですが、6千万ほどお金をかけて小学校4年生をビジターに來させて「もう一回券」というのを渡します。小学校の先生と話していると、一番教えやすいのが4年生だそうです。それまでに感性豊かにさせる。また、金沢21世紀美術館は観客の大半が一般の市民です。半分はフリースペースで、子どもさんを連れてきて遊んだりワークショップをやっているという形です。美術館は市民のためにあるので市民に喜ばれること。結局美術館で一番問題なのは、一般の人たちをどうやって來させるかなんですね。無料にしたら來るかといったら來ないです。金沢の場合は感性豊かに子どもたちを育てていく環境が将来素晴らしい子が出来るだろうということでやっています。

あと、アーティストバンクですけど、作ってただ登録なのでしょうか。例えば私の息子が木工で妻は画家をやっているのですが、やはり練習場と発表の場というのが大事で、バンクに登録したらその練習と発表の場ができることが必要です。高山は3年に1回、そういう人たちのオンステージとしてバックアップしながら発表の場を設けています。日々の練習をどうするかは、例えば松川村は練習場もみんなで調整して使っています。松本市は芸術館とかサイトウキネンがあると全部ば一つと抑えちゃって、中々市民が使いにくいという意見が出て、副市長が慌てて今度からちゃんとチェックしますとおっしゃりましたが、この練習場と発表の場というのは大事。松川は140団体でそれやっています松本市はバンク登録76団体ということですので、そういうことをしていただきたいというのがあります。

あと公共施設ですが、私は今年、110周年なのでおもてなしコンサートとワークシ

ヨップをやって欲しいということから、政策部長経由でどうしてもやりたいので市長に渡して欲しいと申請しました。予算がついてやっていますけれど、今年だけの予算ですので、やっぱりこういうことを公共施設に協力していただいて、ずっと続くような形にしないと「ここでやりました。」で終わってしまいます。さっき委員が、段々人が多くなっていると言っていて非常にありがたいと思います。いざやるとなるとお店の方たちから、うるさいとかクレームも多かったのですが、段々松本の街なかで、松本に来るといつも音楽やっているねという形になっていけばいいなど。最初から大好きな人と嫌いな人がいて、その中間層へのきっかけ作りということ、全員を巻き込むというのは難しいのですけど。あとマーケティングとかも使って、この層でこの人たちはこれに行けるとかいうことを明確に出して、例えば子どもさんが親と一緒に楽しめるとかですね。各層に応じてどうしたらいいか、地域と層というのはマーケティングですので、やみくもに、やるからただ来いというのは駄目だと思いますのでその辺も少し考えて。最近文化芸術マーケティングというのは盛んになってきているので、そういうのを併せて参加しやすい形を作るのが理想です。

セイジオザワさんの練習等を聴きに行った子どもたちがいて、その子たちにアンケートを取ると、約30%が大きくなって学生になった時に自分でアルバイトしてお金出して聴きに行っているのです。だから子どもたちに対するそういうのは非常に大事だと思います。それから高山というのは音楽を中心に文化芸術をやっている町なのですが、そこで松本の中学校の吹奏楽は以前レベルが低かったが、最近すごく高くなったって言われています。これはたぶん、セイジオザワが来た時にそういう人たちが指導しに行ったり、中学校とか小学校とかを訪問してそれをやることによってかなりレベルが上がっているのではないかと。その後、予定がつかないとかでそれ以来やめてしまったと聞いたのですが、あれやっぱり市が入っているわけですから、真っ先に子どもたちにそういうのをきちっとやっていただくというのをメインにしてうまく利用していただけたらと思います。

(会長) 全体の話を知っていると、どうしても私たちの見方が、音楽とクラフトが多すぎます。先ほどからの話でいくと、例えば合併した地域に対する意見が出てきません。今の話も町の真ん中の話しであって、網にかかるところですね。網にかからないところにどうのような助成をしていくか、例えばお祭りですね、恐らく地域のお祭りって、ここに出てくる松本ぼんぼんのような、市が中心となっているものではなくて、いざって時のためにはむしろ地域で行っているお祭りを支援することで、災害の時にも人と人の繋がりがあがるような空間を作ってあげる、そういうことが大事だと思います。どこかでそのように意図的に周辺部はこれでいきましょうとか、一回全部作って欲しいと思います。例えばこれは子ども中心ですとか、大人中心はこれですとかいう、同じ目標の中でも家庭関係で年齢層は、地域は、男女はというようなものを作っておかないと、何となくいいこといっぱい書いていただけになってしまいます。いいことはいいことなのだけ

ど現実には全体を見渡すためにはどうしてもこれはこのところでやっておくべきだとかいうことが見えてこない重点項目にならないだろうと思います。そういう意味で今まで何度も話が出てきている子どもの問題が大きそうですから子どもを特にやった場合はどれくらい数字が上がるのだろうか、地域の問題、参加者の問題、そういったものをちょっといくつかの手法の中からつまみ出していただきたいのです。すべていいことだと言ってやればやるほど、すべてやらないで何となく終わってしまいます。そうではなくて私たちがここに集まっている以上は文化振興が論じられているよねとか、少し変わってきたよねと言えるようにしたいと思いますので、すべてやる必要はありません。特にここについてはというようなことをお考えいただきたいと思います。

(委員) うちも子どもがふたりいるのですが、上の子が2歳の女の子で、すごいやりたがりな時期なので、やはりそういうちっちゃい頃からやらせてあげられる。こっちに引き込めるような。その時大事なのは親世代をどう引っ張ってくるかなのですが、子どものためなら子育てしている親は結構来やすいと思うんです。大義名分って言い方はおかしいかもしれませんが、小さい頃からどんどん巻き込めるような形をどんどん作っていければ、次の世代を作っていくのにいいのではないのでしょうか。

(会長) 松本市は子どもに重点を置きますと宣言してしまうくらいしないと駄目だと思います。つまりお金のかけかたもどこに重点的にお金をかけたらそれが一番合理的なのか、という意味からすると文化教育というのは小さいうちにかけての方が明らかにプラス。それから先ほど委員から意見が出た、発表の機会を与えるということ。

機会を与えることによって伸びますので、子どもたちを巻き込む講座、子どもたちに機会を与える講座、それからそれを大人でしかできない、例えば会場を手配するとか、ちょっとずつ役割の中に。皆さん文化振興課の中にここまではできる、ここから先は教育委員会に任せようとか、これもある程度の戦略性を持ってやっていただけたら違ってくると思います。

(委員) 手前味噌になってしまいますが、絵本講座というのを年2回開いております。1歳の赤ちゃんとお母さんとか、上は70代まで大体40人くらい集まるのですが、真っ白な絵本の冊子を子どもたちに使ってもらって、自由な発想で描いてもらっています。子どもたちは何の躊躇（ちゅうちょ）もなく様々な色を使って描いているところを見るとすごいな、この子たちこのままどんどん育てて欲しいと思います。また年輩の方は、うちの孫は虫が嫌いだから虫が好きになる本を描きたいというような目的を持って参加されたりしていますが、年代幅が70年というような人たちが一堂に会して和気あいあいとっております。松本市美術館の中庭の芝生は、子どもたちにとって一番安全な遊び場所です。途中で飽きた子どもたちはそこに行って転がったりしています。つい先日も夕涼みというイベントを行い、大変お子さまが集まりまして、七夕人形のワークショップを行ったり、それも全部ボランティアで、包装紙を使ったりしているのですが、大変意欲的に参加しています。ああいう力をもっと伸ばしてあげたいというのが私たち高

齢者の最後のあれじゃないですけど。松本市の美術館にもそういうところもあるという、申しあげました。

(会長) 要するに子どもたちを中心に、それと今は世代間交流の話がもうひとつの要素だと思います。文化を作っていく役割分担ですね、あくまでも高齢者になったら次の文化を育てるために働いてもらおうというような世代間の交流あるいは世代間の役割をきちんと明記していくとさらに良くなりますと。

(事務局) すみません、補足です。先ほどらいの話の中で委員さんの方から今回、今でいう楽都まつもとライブとか公共スペースの活用関係で110周年ということでご提案いただいたということなのですが、私どもとしてはそのご提案いただいて、取り組みを進めていきたいということで、今年度だけでなく来年度以降の展開も考えております。それで先ほどこの公共スペースの活用が、楽都まつもとライブもそうですし、アーティストバンクもそうです。先ほど行政として支援できる部分というようなお話をいただきましたが、行政で支援しているところから離れて市民の皆さんが横のつながりにきちっと持っていかないと将来の継続性なり発展性もないと思っていますので、そういう仕組みづくりも考えていきたいというような思いを持っています。先ほど委員の方から文化芸術マーケティングという話もありましたが、最初から申しあげておおり、私どもの指標の設定、非常に悩ましいところございまして色々な意見をいただきたいなと思っています。そのマーケティングの手法も含めて、追々で結構ですが指標の取り方とかデータの取り方とかをまたご示唆いただければと思いますのでよろしくお願ひします。

(会長) 今までの話の中で、本来網かけあったところ、これは切らなきやいけないという意見出ていないので、これはいいですね、そのままで。その上で先ほど意見が出ていた、例えば図書館のようなものをちょっと増やしてくれないかとか、できたら埋まっていくようなものとか、事務局の方で今までの意見を元にしてそれをピックアップしていただけないでしょうか。基本的には先ほどのように、そのセンテンスに対して各委員のところこれにこれなぜ重要であるのかを、縦横の指標の中で、例えば年齢、性別、その他、要素が見られるような形にさせていただけたらと思います。私たちもまた、簡単にこれを見るのではなく、客観化がどうしても必要で、今までどうも作る段階では時間に限りがありましたので、私たちとしては最高の文化振興策を作ったつもりですけど、評価という軸をこれから重点的にしていくためにはより合理的にしたいと思っていますのでその点を是非ご協力いただきたいと思っています。

(委員) 小学校4年生というのは、4年生までに、という意味です。

(会長) うちのところも大体小学校5年生にやっています。バスを仕立ててくるものから結局バス代出してもらって、でも来ると普通の人たちには見せないところも見せるとすごく勉強になって帰っていく。ですから仕掛けをどうするか、そのことによってどういう効果が出ているかということの判定ですので、私たちにとってアリのバイ的に、例えば今まであまり取り上げられていなかった歴史館がこんなに出ているよとか、フェイ

スブックに取り上げられていましたよとかいうような、他人に対してどうしたら説得できるかということを少し考えていきたいと思います。先ほど異議はないということで以上で終わります。

4 閉 会